

## 北海道留辺蘂高等学校

課程 全日制  
 学科 総合学科  
 生徒数 208名

### 1 取組の特徴

学級環境適応調査（アセス）を実施することで、人間関係においてトラブルを抱える可能性のある生徒を早期に発見するとともに、コミュニケーションスキルに関する様々なトレーニングを実施し、生徒のコミュニケーション能力を育成している。

### 2 取組のねらい

毎年、入学者の中には人間関係を形成する力が不足している生徒が見受けられることから、人間関係のトラブルによる1年次での中途退学を防止するため、生徒のコミュニケーションスキルの育成を目指す。



### 3 取組の経過

4月 「入学式でトレーニング」アセス1回目実施	10月 講演会「最強！高校生のための認知行動療法」
「宿泊研修でトレーニング」	聞き方のトレーニング
6月 研修会「アセスの理論と活用」	話し合いのトレーニング
7月 講師主導のピア・サポートトレーニング	断りのトレーニング
研修会「生徒理解や気になる生徒への支援方法について」	12月 アセス2回目実施

### 4 取組の内容

1 研修会・講演会（6月9日、7月22日、10月3日実施）

- (1) ねらい  
アセスの有用性、特別支援教育、認知行動療法についての理解を深める。
- (2) 対象  
本校職員、外部教育関係者
- (3) 内容  
「アセスの理論と活用」、「生徒理解や気になる生徒への支援方法について」、「最強！高校生のための認知行動療法」をテーマに研修会及び講演会を実施した。
- (4) 成果等  
教員の専門的知識を高めることができた。



アセスの有用性



特別支援教育



認知行動療法

2 学級環境適応調査の実施と結果の分析（4月19日、12月14日実施）

学級環境適応調査を2回実施した。1回目の調査結果において、気になる生徒3名に着目し、当該生徒のトレーニング前後における生活満足度の数値を比較した。程度の差はあるが、トレーニング後は全ての生徒の生活満足度の数値が上昇した。

3 講師主導のピア・サポートトレーニング（7月6日実施）

- (1) ねらい  
ピア・サポートトレーニングを通して生徒の他者理解を深めるとともに、講師の手法を教員が学ぶ。
- (2) 対象  
1年生
- (3) 内容  
中野武房氏を講師に、相手の良いところを探して、そのことを相手に伝えるトレーニングを実施した。
- (4) 成果等  
生徒から「ほめられると少し恥ずかしいけど、うれしい」、「友達の良さを見付けることができて良かった」などの感想があり、トレーニングを楽しみながら、他の生徒に対する理解を深めることができた様子が伺われた。



4 教員主導のピアサポートトレーニング（4月11日、4月24日、10月12日、10月19日、12月7日実施）

- (1) ねらい  
話すことや聞くことのトレーニングを段階的に実施し、生徒のコミュニケーション能力を高める。
- (2) 対象  
1年生
- (3) 内容  
中野武房氏指導・監修のもと教員主導で、入学直後の学年集会や、宿泊研修、ホームルーム活動において、「アイスブレイク」、「言葉の重要性」、「聞き方」、「話し合い」、「断り」のトレーニングを実施した。
- (4) 成果等  
生徒から「話し手をよく見て聞くことの大切さが分かった」、「意見が異なるときは、相手の理由を聞くことが大切だと思った」などの感想があり、コミュニケーションの大切さを理解させることができたと考えられる。



アイスブレイク



言葉の重要性



聞き方



話し合い

### 5 次年度に向けて

- 1 成果  
今年度は、講師ではなく教員が、入学後の早い時期からトレーニングの指導をしたことにより、生徒集団の特徴や成長の度合いに応じたトレーニングを行うことができた。また、学校祭や体育祭などでは、生徒同士の人間関係の広がりや協力して作業する場面が随所に見られた。
- 2 課題  
講師が実施したトレーニングと教員が実施したトレーニングを比べると、生徒の反応に差があり、教員の専門知識の質と量に課題が見られた。また、トレーニングのバリエーションを増やし、早期に短期集中で実施したが、トレーニングの内容には偏りがあった。
- 3 次年度に向けて  
トレーニングを実施する際は、専門家に監修していただいたり、研修会へ参加して専門的な知識を深めたりするなどして、一層の研鑽を積む必要がある。また、各トレーニングの関連を明確にし、夏季休業前に基本的なものを順序立てて実施することが重要である。